



「添乗看護師」の仕事・役割とは

高齢者の旅行が増加する中で、健康管理の世話をする看護師が旅に添乗するケースが、少しずつ増えているという。添乗看護師は、どんな仕事をする人たちなのか、看護師専門の派遣会社、アテンダントナーズの清水美紀代表取締役役に話を伺いました。

●旅行添乗する看護師の登場

看護師が旅行に添乗するようになったのは約15～20年前。派遣会社の誕生は、とある旅行会社が知り合いの看護師に頼んだ際に事故が起き、補償問題が浮上したためと聞いています。看護師の手配業務は一般の派遣会社もいますが、添乗看護師に特化する会社は珍しく、現在アテンダントナーズは全登録看護師のうち、1000人が添乗できる体制です。

●安心できる看護師さん？

添乗看護師は、看護師または准看護師資格を有し、病院で一般的な臨床経験を3年以上積んでいます。基本的に自力で旅行できる人に付き添いますが、現地では何が起こるか分かりません。臨床経験の乏しい人やパーナースでは対応できない場合もあるためです。

さらに旅行中のお客様対応、コミュニケーションスキル、場の空気を読む力、

ホスピタリティマインドも兼ね備えている必要があります。マニュアルに沿って事前に学習してもらっています。

●修学旅行の需要以外にも

海外添乗は通常、国内で6回程程度の経験を積んだからのデビューとなります。

最も多い依頼は国内も海外も修学旅行。全体で年間数千件の添乗業務がありますが、海外は1～2割。1か月の間の海外留学や、短期の海外研修も多いです。行先は安全安心で治安のいい国。東南アジアが多くマレーシア、シンガポール、フィリピン、タイ、台湾、ほかにオーストラリア、ニュージーランド、グアム、ハワイ、アメリカ、カナダ、イギリス、イタリア、フランス、ドイツなどの依頼も多く受けます。

●旅行中のお役立ち場面

添乗業務に出る際、医薬品（内服薬や医療機器など）は、看護師自身は持参しません。看護師は、医師の指示がなければ医療行為を行えないため、病気の対処ではなく、お客様が突然体調不良を起こされた際の心身のケアが主になります。具体的には、食べ物合わない、お腹を壊した、車酔い、時差ボケ、メンタル面での世話など。

ケガの際は、止血などの応急手当は行

います。患部はもとより全身状態も観察し、何をすれば悪化を防げるかというアドバイスをします。

そして最も大事なのは、症状を見極めて病院での受診が必要かどうか、旅行の続行が可能か、持参薬を飲むべきかを判断することです。

病院での処方薬を別の人に勧めている場合に、注意を促すこともありま。また導尿や吸引など特殊なケースは、医師からの指示書があれば旅行中の医的に対応に手を貸すこともできますが、現場で看護師ができることは限られているため、体調不良を未然に防げるように声かけをしたり、お体の様子を観察することを心掛けています。

添乗看護師が同行することで、安心して旅行に参加していただけるのが最大の利点です。

●分かってもらいたいこと

看護師だけで行えることは限られていると伝えても、理解されずに医療行為を求められたり、また旅行業務のお手伝いをお願いしてしまうこともあります。看護師は診断名を言うことができないことなど、あくまでも業務には制限があるということを認識しておいていただけますと助かります。

挑戦の数だけ、
保険がある。

To Be a Good Company



東京海上日動

